

保護者各位殿

美木多いっちゃん保育園
ベビーセンターいっちゃん保育園

感染症一覧表について

平素は当園の保育活動にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

さて、今年度の「主な感染症一覧表」を配布いたしますので、宜しくお願いいたします。

裏面の一覧表にある赤いまる○で囲われた病気にかかった時は、登園の際に医師の意見書が必要です。

（裏面に主な感染症一覧表がありますので、ご確認ください。）

医療機関の通達では、意見書（感染症にかかわる登園に関する意見書）が不要な疾患として（マイコプラズマ肺炎・手足口病・伝染性紅斑・ヘルパンギーナ・突発性発疹・とびひ）が表記されています。

しかしながら、マイコプラズマ肺炎・手足口病・ヘルパンギーナに関しては、園内で流行しやすい感染症であるため、当園においては意見書の提出をお願いいたします。

また、「ヒトメタニューモウイルス」についても、意見書が必要といたします。

お手数ではありますが、ご理解とご協力をお願いいたします。

当園で医師の意見書が必要となる感染症一覧表

下記の感染症のうち、**赤で囲っている病名**については、医師の意見書が必要となります。令和2年度より、**ヒトメタニューモウイルス感染症**が意見書が必要な感染症としております。

美 木 多 い っ ち ん 保 育 園
ベビーセンターいっちゃん保育園

医師が記入した意見書が必要な感染症

病 名	症 状	病 原 体	潜伏期間	感 染 経 路	感 染 期 間	免 疫	自 宅 療 養 の 目 安
麻 し ん (は し か)	発症初期には高熱、咳、鼻水、結膜充血等がみられる。発熱が一時期下降傾向となるが再び上昇し、この頃口腔内に白い斑点(コプリック斑)が出現する。その後顔や頭部に発しんが出現する。	麻しんウイルス	8～12日 (7～18日)	主に飛沫感染、接触感染及び空気感染(飛沫核感染) 感染力は非常に強く、免疫がない場合はほぼ100%の人が感染する	発熱出現1～2日前から発しん出現後4日まで	終生	解熱した後3日を経過するまで
風 し ん (三 日 は し か)	発しんが顔や頭部に出現し、全身へと拡大する。発しんは約3日で消え、発熱やリンパ節腫脹を伴うことが多く、悪寒、倦怠感、眼球結膜充血等を伴うこともある。	風しんウイルス	16～18日 (14～23日)	主に飛沫感染であるが、接触感染することもある	発しん出現7日前から発しん出現後7日まで	終生	発しんが消失するまで
水 痘 (水 ぼう そう)	発しんが顔や頭部に出現し、やがて全身へと拡大する。発しんは、斑点の赤い丘しんから始まり、水泡(水ぶくれ)となり、最後は痂皮(かさぶた)となる。	水痘・帯状疱疹しんウイルス	14～16日 (10日未満や21日程度になる場合もある)	気道から排出されたウイルスによる飛沫感染又は空気感染 膿疱や水泡中にはウイルスがいるので接触感染もする	発しん出現1～2日前から、すべての発しんが痂皮(かさぶた)化するまで	終生	全ての発しんが痂皮(かさぶた)化になるまで
帯 状 疱 疹 し ん	過去に水痘(水ぼうそう)に感染し、免疫能の低下をきっかけとして、小水疱が神経の走行に沿った形で、身体の片側に発症することがある。	神経節に潜伏していた水痘・帯状疱疹しんウイルスの再活性化による	不定	一度水痘に罹患するとウイルスを神経節に持っているのが帯状疱疹しんを発症する可能性がある	すべての発しんがかさぶたになるまで(水痘ワクチン未接種かつ水痘に未罹患の者が帯状疱疹しんの患者に接触すると水痘にかかる可能性がある)	再発することもある	全ての発しんが痂皮(かさぶた)化になるまで
流行性耳下腺炎 (おたふく かぜ) (ム ン プ ス)	発熱と唾液腺(耳下腺・顎下腺・舌下腺)の腫脹・疼痛で、発熱を伴い唾液腺の腫脹は片側が腫脹したあと反対側が腫脹することが多い。腫脹部位に疼痛があり、唾液の分泌により痛みが増す。	ムンプスウイルス	16～18日 (12～25日)	唾液を介した飛沫感染又は接触感染	耳下腺などの唾液腺が腫脹する1～2日前から腫脹5日後までが最もウイルス排出量が多く、他への感染の可能性が高い	終生	耳下腺、顎下腺、舌下腺の腫脹が発現してから5日し、かつ全身状態が良好になるまで
百 日 咳	特有な咳(コンコンと咳込んだ後、ヒューという笛を吹くような音を立てて息を吸う)が特徴で、連続性・発作性の咳が長期に続く。	百日咳菌	7～10日 (5～12日)	主に飛沫感染及び接触感染	咳が出現してから4週目まで ただし抗菌薬治療開始後5日程度で感染力は著しく弱くなる	終生	特有の咳が消失するまで又は5日間の適正な抗菌薬による治療を終了するまで
インフルエンザ	突然の高熱が出現し、3～4日続く。全身症状(倦怠感、食欲不振、関節痛等)や気道症状(咽頭痛、鼻汁、咳等)を伴う。	インフルエンザウイルス	1～4日 (平均2日)	主に飛沫感染であるが、接触感染することもある	発熱1日前から3日目をピークとし7日目頃まで(低年齢児では長引くという報告あり)	ワクチン接種後約2週間から5ヶ月持続	発症した後5日を経過し、かつ解熱した後3日を経過するまで
咽 頭 結 膜 熱 (ブ ール 熱)	高熱、咽頭痛、頭痛、食欲不振を訴え、これらの症状が3～7日続く。その他、扁桃腺炎、結膜炎などがある。	アデノウイルス	2～14日	主に飛沫感染及び接触感染 プールでの目の結膜からの感染もある	咽頭から2週間、糞便からは数週間排泄される	再感染あり	発熱、充血等の主な症状が消失した後2日を経過するまで
結 核	慢性的な発熱(微熱)、咳、疲れやすさ、食欲不振、顔色の悪さ等。	結核菌	3ヶ月～数10年 (特に6ヶ月以内に多い)	主に空気感染	喀痰の塗抹検査が陽性の間	再発することもある	医師により感染のおそれがないと認められるまで
腸 管 出 血 性 大 腸 菌 感 染 症	無症状の場合もあるが、多くの場合には、水溶性下痢便や腹痛、血便がみられる。溶血性尿毒症候群を合併し、重症化する場合がある。	ベロ毒素を産生する大腸菌 (O157、O26、O111 など)	ほとんどの大腸菌が10時間～6日、O157は3～4日	主に、菌に汚染された生肉や加熱が不十分な肉、菌が付着した飲食物からの経口感染、接触感染(患者や保菌者の便からの二次感染もある)	便中に菌が排泄されている間	なし	医師において感染の恐れがないと認められるまで(2回以上連続で便から菌が検出されなくなり、全身状態が良好であること)
急 性 出 血 性 結 膜 炎	強い目の痛み、目の結膜(白目の部分)の充血、結膜下出血がみられる。また、目やに、角膜の混濁等もみられる。	エンテロウイルス	平均24時間 又は2～3日	飛沫感染及び接触感染、経口(糞口)感染	ウイルス排出は呼吸器から1～2週間、便からは数週間～数か月	終生 (ウイルスの型が異なれば感染するおそれあり)	医師により感染の恐れがないと認められるまで
流行性角結膜炎 (は や り 目)	主な症状として、目が充血し目やにが出る。幼児の場合、眼に膿が張ることもある。片方の目で発症した後、もう一方の眼に感染することがある。	アデノウイルス	2～14日	飛沫感染、接触感染 プール水、手指、タオルなどを介して感染する	発症後2週間(便中に1か月程度排出されることもある)	3～4年間免疫持続	結膜炎の症状が消失するまで
侵襲性髄膜炎菌感染症 (髄膜炎菌性髄膜炎)	発熱、頭痛、意識障害、嘔吐であり、急速に重症化する場合がある。劇症例は紫斑を伴いショックに陥り、致死率は10%、回復した場合でも10～20%にまひ等の後遺症が残る。	髄膜炎菌	4日以内 (1～10日)	主に飛沫感染及び接触感染	有効な治療を開始して24時間経過するまで	再発することもある	医師により感染の恐れがないと認められるまで
R S ウ イ ル ス 感 染 症	呼吸器感染症(発熱、鼻汁、咳等)で、初感染した場合の症状が重く、特に6か月未満の乳児では重症な呼吸器症状を生じる。	RSウイルス	4～6日 (2～8日)	主に飛沫感染及び接触感染 (環境表面で長い時間生存できる)	通常3～8日間 (乳児では3～4週)	なし	呼吸器症状が消失し、全身状態が良くなるまで
ヒトメタニューモウイルス感染症	主な症状は咳であり、肺炎を引き起こす。咳、発熱、頭痛等のかぜ症状がゆっくり進行し、特に咳は徐々に激しくなり数週間に及ぶこともある。	肺炎マイコプラズマ	2～3週間 (1～4週間)	主に飛沫感染 家族内感染も多くみられる	臨床症状発現時がピークで、その後4～6週間続く	再感染多い	発熱や激しい咳が治まるまで
ウ イ ル ス 性 (感 染 性) 胃 腸 炎	嘔気/嘔吐、下痢、発熱、合併症として、脱水、けいれん、脳症、肝炎。【ノロウイルス】学童、成人にも多くみられ、再感染も稀ではない。【ロタウイルス】下痢はしばしば白色便となる。	ノロウイルス ロタウイルス アデノウイルス など	【ノロウイルス】12～48時間 【ロタウイルス】1～3日 2～5日 (伝染性膿痂疹しん(とびひ)では2～10日)	経口(糞口)感染・接触感染・食品媒介感染(吐物の感染力は高く、乾燥した吐物から空気感染もある)	症状のある時期が主なウイルス排泄期間 ウイルスは便中に3週間以上排出されることがある	なし	嘔吐・下痢等の症状が治まり、普段の食事が出来るようになるまで
溶 連 菌 感 染 症	扁桃炎、伝染性膿痂疹しん(とびひ)、中耳炎、肺炎、化膿性関節炎、骨髄炎等の様々な症状を呈する。扁桃炎の症状としては、発熱やのどの痛み・腫れ、化膿、リンパ節炎が生じる。	溶血性レンサ球菌	2～5日 (伝染性膿痂疹しん(とびひ)では2～10日)	飛沫感染及び接触感染 食品を介して経口感染する場合もある	抗菌薬内服後24～48時間が経過するまで	再感染もあり	抗菌薬の内服用後24～48時間が経過するまで
手 足 口 病	水疱性の発しんが口腔粘膜及び四肢末端(手のひら・足裏・足甲)に現れる。口内炎がひどくて食事が取れない事がある。	コクサッキーウイルスA16・A10・A6、エンテロウイルス71等	3～6日	主に飛沫感染、接触感染及び経口感染	症状が出た最初の週の感染力が最も強い 回復後も飛沫や鼻汁からは1～2週間、便からは数週間～数か月、ウイルスが排出される	なし	発熱や口腔内の水疱・潰瘍の影響がなく、普段の食事がとれるようになるまで
伝 染 性 紅 斑 (り ん ご 病)	かぜ様症状の後に、顔面、頬部に蝶のような形あるいは平打ち様といわれる紅斑がみられる。四肢の発しんは網目状、レース状又は大理石紋様と称される。発しんは1～2週間続く。	ヒトパルボウイルスB19	4～14日 (～21日)	主に飛沫感染	発しんが出現する前が最も感染力が強いが、発しんが出現する時期には感染の危険性がなくなる	終生 (再感染例も少数あり)	全身状態が良いこと
ヘルパンギーナ	発症初期には、高熱、のどの痛み等の症状がみられる。また、咽頭に赤い粘膜しんがみられ、次に水泡(水ぶくれ)となり、まもなく潰瘍となる。高熱は数日続く。	主としてコクサッキーウイルス	3～6日	主に飛沫感染、接触感染及び経口感染	飛沫や鼻汁からは1～2週間、便からは数週～数か月間、ウイルスが排出される	なし	発熱や口腔内の水泡・潰瘍の影響がなく、普段の食事がとれるようになるまで
突 発 性 発 し ん	3日間程度の高熱の後、解熱するとともに紅斑が出現し、数日で消えてなくなる。	ヒトヘルペスウイルス6B及び7	9～10日	ウイルスは多くの子ども・成人の唾液等に常時排出されており、移行抗体が消失する乳児期後半以降に保護者等の唾液等から感染すると考えられている	感染力は弱いですが、発熱中は感染力がある	2回罹患する小児もいる	解熱し、機嫌が良く全身状態が良好になるまで

インフルエンザにおける
自宅療養の目安
の日数の数え方

①「発症した後5日」の数え方

発 症 1 日 目 2 日 目 3 日 目 4 日 目 5 日 目 登 園 可 能

②「解熱後3日」の数え方

発 症 発 熱 解 熱 1 日 目 2 日 目 3 日 目 登 園 可 能

「発症した後5日を経過し、かつ解熱した後3日を経過するまで」の考え方

①の場合 1 日 目 2 日 目 3 日 目 4 日 目 5 日 目

発 症 発 熱 解 熱 熱 な し 熱 な し 登 園 可 能

②の場合 1 日 目 2 日 目 3 日 目

★ 登園には①「発症した後5日」および②「解熱した後3日」の両方を満たす